

特別付録 『進化するインサイト大特集』

XCAR

月刊 **ザッカー10** 2009 October
新車・高性能車こだわりマガジン
定価 600円

毎月10日発売

エコカーも好きだけど...

全開取材!

最新・最高の スポーツモデルは どれだ?

大集合 GT-RスペックV vs 基準車vsインプレッサ・スペックC vsアウディ R8

ツインリンクもてぎテスト



テスター陣は 鈴木亜久里 / 土屋圭市 / 新井敏弘 / ピストン西沢ほか



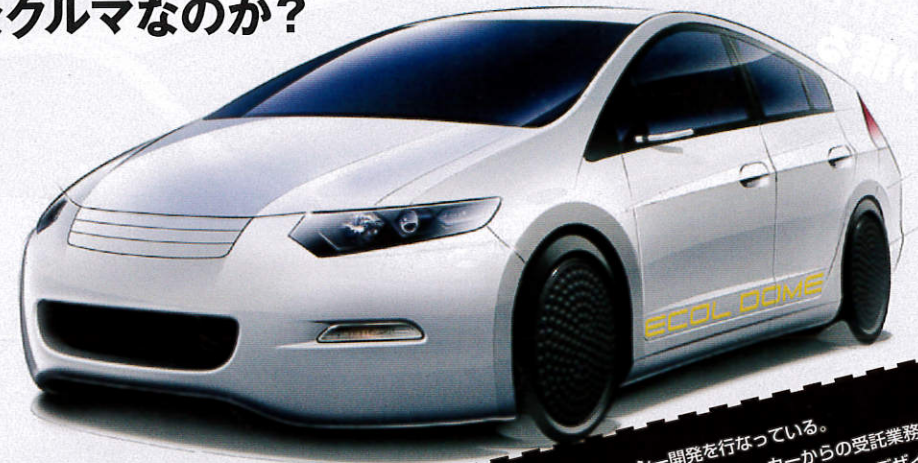
TRDプリウスの実力
特別企画 MTに乗れない男たちへ!
レガシィ B4のスーパー GT挑戦への道
衝撃スクープ! 「奇跡の水」で燃費・パワーアップ!!!

新型ゴルフGTI初のサーキット全速テスト

スイフト・スポーツ
Euroバージョン試乗!



ECOL DOME SUPER INSIGHT (エコール童夢スーパー・インサイト) とは いったいどんなクルマなのか?



1978年のジュネーブショーで発表された童夢-零。童夢のエントランスホールに展示されている

日本を代表するレーシングカーコンストラクター。1975年に京都府に設立。スーパーカーブームの中、和製スーパーカー「童夢-零」を開発。生産型プロトタイプ「P2」に発展させ、市販化を目指したが、当時の運輸省の不認可により計画は挫折。その後、ル・マン24時間耐久レースやグループCカー（トヨタ）、F3000などオリジナルマシンを開発。1996年には純国産F1プロトタイプマシンも開発、実証テストも行っている。このころから、ホンダのレーシングカーの開発担当となり、ここから現在までJGTC（現スーパーGT）用NSXのシャシー開発を行なっている。レース活動以外にも、自動車メーカーからの受託業務も行っており、新型車両の企画段階から参加。デザイン・先行試作車開発だけでなく生産設計まで行なっている。

この「童夢」と50%スケールの風洞実験設備を持つ「風流舎」、カーボンコンポジットの開発製造を行なう「童夢カーボンマジック」の3つが三本柱となるが、2005年にすべての童夢関連の施設を滋賀県米原市に集結。世界一のレーシングカーコンストラクターを目指す。

カーボンと空力のスペシャリスト集団

童夢が秘密裏に 開発を進める インサイトがこれだ!

日 本を代表するレーシングカーコンストラクターである「童夢(DOME)」が、スペシャルなインサイトを開発しているという情報を入手した。正直言えば「レーシングカーメーカーがなぜ市販車…それもインサイト?」という疑問もあったが、古くは「零」や「ジオット・キャスピタ」など、ナンバー付を前提としたモデルの開発も行なったことがあるのだ。

童夢に連絡すると、「まだ開発途中ですが、何も隠すような秘密もないので、試乗も可能です」とのこと。我々は滋賀県米原市にある童夢のファクトリーに向かった。

迎えてくれたのは、童夢の創設者、社長の林みのるさんと、数々のレーシングカーの設計をしてきた開発部長（兼、童夢カーボンマジック社長）の奥明栄さん。

「童夢といえば、レースのイメージが非常に強いと思いますが、なぜインサイトなのですか?」

林 我々は今までレーシングカー



DOME UNDER COWLING

かつてこれほど高性能な空力部品が存在したであろうか

CELICA ST202用発売開始

■実際のレーステクノロジー
レースカーの空力性能を向上させるには、フロントとリアの空力性能を向上させることが重要である。DOME UNDER COWLINGは、フロントとリアの空力性能を向上させるための空力部品を提供する。これにより、レースカーの空力性能を向上させることができる。

■性能データ

項目	標準値	DOME UNDER COWLING装着時
0-100km/h	12.5sec	11.5sec
最高速度	180km/h	190km/h
燃費	18km/l	20km/l

■お問い合わせ先
DOME RACING CO., LTD. 〒510-0201 滋賀県米原市米原1-1-1 TEL: 075-3201-1001 FAX: 075-3204-0114

■販売店
滋賀県米原市米原1-1-1 TEL: 075-3201-1001 FAX: 075-3204-0114

■お問い合わせ先
DOME RACING CO., LTD. 〒510-0201 滋賀県米原市米原1-1-1 TEL: 075-3201-1001 FAX: 075-3204-0114

■お問い合わせ先
DOME RACING CO., LTD. 〒510-0201 滋賀県米原市米原1-1-1 TEL: 075-3201-1001 FAX: 075-3204-0114

これまでの童夢のチャレンジの中で、インサイトのヒントになったのが、この「DOME UNDER COWLING」。販売価格53万6000円。「1セットだけ売れた」という

ECOL DOME SUPER INSIGHT IMPRESSION

技術を研鑽してきましたが、現在の経済状況の中で、その力をどこへ向けたらいいのかを考えました。レーシングカーの技術は一般的な商品開発で得られない成果が多々あります。その技術が環境や省エネに活用が効くのではないかと、それをわかりやすい形で証明しようと思いました。

インサイト以前に市販車をベースに何か研究を行なったことはあったのですか?

奥 実は15年くらい前にアフターマーケット用にアンダーパネルを開発したことがあります。

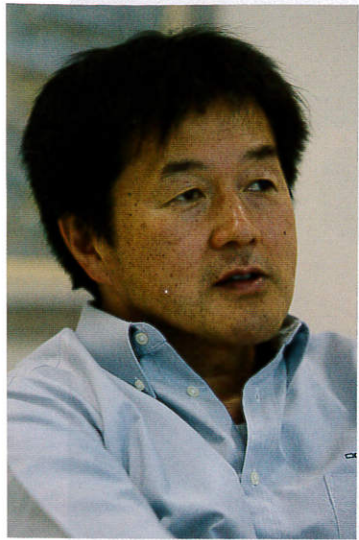
ダウンフォースと空気抵抗の低減がテーマだったので、性能向上を目指していたのですが、高速道路を100km/h平均で走っていると15%くらいの燃費の向上が確認できました。と言っても、このころは「燃費」なんて、おまけ

開発途中の暫定仕様だが、試乗させてもらった。見た目はちょっとドレスアップしたインサイトにしか見えないが、カーボン製のボンネット/リアハッチ、床下アンダーパネルが装着されている。

サスペンションはノーマル、ホイールは無限、タイヤはBSのエコタイヤ（エコピア）というノーマルのインサイトはキビキビ走る半面、高速走行時の直進安定性があまりよくないのだが、童夢インサイトは外乱の影響を受けにくくなり、高速走行時も非常に安定した走りになった。その結果、ドライビング時の安心感が増したように感じた。これが空力によるものなのか?

燃費に関しては計測していないので、何ともいえないが、瞬間燃費計のゲージが直前に乗ったノーマルよりもいい値を指すような気がした（エコタイヤの影響もあるかもしれない）。完成したら再び試乗させてくれるということなので、どうぞ期待。どのような走りや燃費を達成するのか非常に楽しみだ。





奥明栄

童夢カーボンマジック・代表取締役社長



カーボンボンネット。ノーマル形状と変わらない

と軽量化を並行して行なっています。今の仕様は、床下アンダーパネル（プラス25kg）の装着とボンネット（マイナス6kg）、リアハッチ（マイナス10kg）の軽量化のみですが、専用デザインのフロントバンパーとドア（どちらもカーボン製）に変更します。

は、電子制御を使わずに、風洞上での理想的な状況（車高/ピッチ/車両の姿勢）に持っていける機構を盛り込む予定です。また、ハブやシール、ベアリングなどの細かい部分でも抵抗を減らします。

高速域では空力が燃費に大きく貢献すると思いますが、軽量化は市街地のストップ&ゴーなどに効くでしょうね。まだ、我々もそのようなデータがないので、いろいろ探っていこうと思っています。

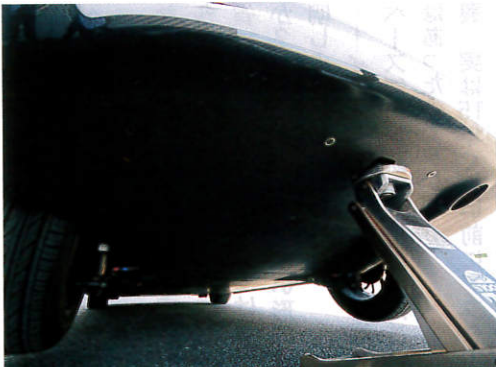
われわれは基本的には技術を売る。形にあるものは売ってない。だからこれは技術の研鑽です

林みのる

童夢・代表取締役社長



「車体屋としてまだまだやるべきことはある」ということのアピールですよ



フロントのチン部分からサイドスカートまでカバーするアンダーカウル。重量的には25kgほどになってしまい、これからこの分の軽量化をしていくという。リアタイヤのホイールアーチ前方に取り付けられてるでっばりはレーシングカーにも使われている空力パーツのひとつ

たいなものですが…。林 市販の一步手前まで行って、自動車雑誌に広告まで入れたけど、コンセプトが伝わらなかった。1セットだけ「どうしても欲しい」という人がいたので売ったけど、後で聞いたら「トヨタ東富士研究所」でした。

ECOL DOME SUPER INSIGHT

ですが、クルマがクルマなので時流にマッチしない。そんな中、インサイトがデビューしたので並行して開発をしています。ちなみに、レーシングカーの技術というのは、市販車にも応用できるものなのですか？

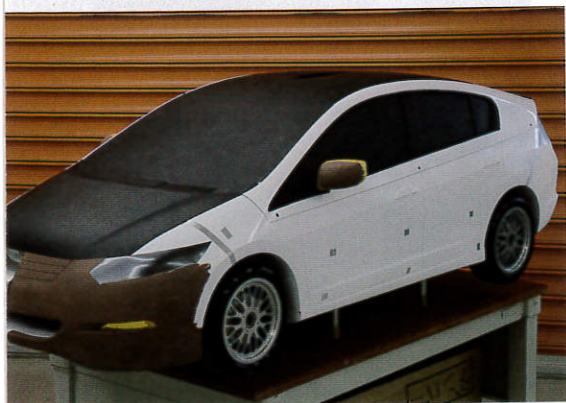
一緒に並んでいるのは、インサイトに先駆けて、軽量化実験を進めてきたシビック



ECOL DOME SUPER INSIGHT

この後は、軽量化をメインに、既出のイメージイラストのようなフロントバンパーが装着される予定。他のものでも、効果があれば装着していくという。

リアハッチもカーボン化。ポリカーボネート製のパネルを装備するも、基本的にはリアのガラスエリアは、ないに等しい。その分、リアカメラを装着し、バックミラー代わりに液晶モニターを装着している



あると思います。我々は車体屋なので、「まだまだ甘いよ!!」と言いたい。レースカーを開発してきた人間として、レースカーで遊んでいたのではなく、色々な意味があるということを言いたいです。

奥 インサイトに盛り込んだ技術が派生して、物ではなく技術が欲しいというビジネスに結びつけばいいと思っています。我々は基本的に「技術を売る」集団なので。

林 まあ、そういう意味ではインサイトは、自己満足な非常に無意味なプロジェクト(笑)。

——ただ、やるからには頂点は目指す? ということですね。

林 そう。ホンダもエコグランプリをやり始めましたが、これがコンペティションになっていくと、競技としても面白いと思いますよ。やはり結果を出さないとね。

現在JWLの試験をしているというカーボンホイール。表面側にはホイールカバーを装着する。また、カーボンを使用したダンパーのケースも開発中

